

交換留学活動報告書

2022年4月7日

王遠哲

はじめに

まず、国際経営学部の先生方、そして選考に参加して下さったすべての方に感謝します。KU Leuven で交換留学ことができ、光栄です。そして、今年国際経営学部の長期留学・海外インターンシップチャレンジ奨学金をもらえることにとても感謝しています。

今回、私は2021年9月から2022年2月まで、ベルギーのKU Leuven で一学期の交換留学をしました。交換留学申請の際、各学生は希望校として3校を選ぶことができますが、私はルーベン大学の1校しか記入しませんでした。以下では、最初に、交換校としてKU Leuven を選択



図1 City Hall of Leuven

した理由を簡単に紹介します。1つ目は、「ヨーロッパの中心」であるベルギーというユニークな場所にあるため、ヨーロッパを理解するのに便利です。2019年にGS1でワシントンDCのインターンシッププログラムに参加して以来、米国である程度の経験があります。ヨーロッパに関しては、私は非常に興味があり、ヨーロッパについてもっと学ぶ機会を提供する学校を選ぶことに熱心になりました。つぎは、500年以上の歴史を持つ有名なヨーロッパの大学と、近年ヨーロッパで最も革新的な大学に5年連続で選ばれているKU Leuven として、その教育の質と全体的な雰囲気は非常に魅力的です。私にとって、ある難しさの試験は私にとっていい挑戦です。以下では、今学期の勉強の方面、生活、その他の側面の経験について詳しく説明します。

学習について

KU Leuven でのこの1学期の交換留学では、正式に3つのコースを選択して最終試験を次々に完了し、他の2つのコースを受講して試験を受けずに選択しました。KU Leuven の学期は比較的短く、中央大学での14週間の授業と比較してわずか12週間です。これには、短期間で高強度教育の特徴もあり、コース内容の特徴によって各授業の長さも異なります。3時間以上の大規模な講義と、通常の2時間の講義があります。コースの大部分はクリスマスまでに終了します。1月と2月上旬になったら、集中的な試験月です。試験にはさまざまな種類がありますが、もちろん口頭試験が最も有名です。型としては20分以内に教授の質問に1対1で答え、教授もいつでも質問します。さらに、一般的な回答フォームとレポートフォームもあります。選択した授業の詳細を以下に説明します。

まず、経済学部の授業である Consumer Behavior を選びました。私は2年生のときにマーケティング論を受講し、三年生の前学期に広告に関する授業も受講したので、この分野だけでなく、消費者行動とそれに対応する行動を分析することに興味があります。今回選択した授業は、ビジネスと心理学の知識を組み合わせた総合的な授業です。科学的かつ規制された分析と

消費者行動の基礎および対応する理論の紹介することも勉強出来ました。毎回の授業前に Toledo（中央のマナバシステムと同様）を通じて読む必要がある専門論文を公開します。個人的に言うと、内容が多いと思います。毎回授業で 10 ページ以上の専門論文に直面しているので、少し苦痛はありますが、リズムに慣れると楽になります。講義の形式は中大と同様で、大規模な講義形式で、300 人以上を収容できる教室で開催されます。アジア諸国がエピデミックの影響を受けた社会的距離とオンラインクラスを厳格に実施している今日の状況では、エピデミックの前の状態に戻ったかのように、そのようなシーンを見るのはまだ少し衝撃的です。各クラスで小テストがあり、ウェブサイトのテストの質問は非常に短い時間ですぐに回答することが必要、最初のときは結構苦労したが、慣れてきたら安心しました。



図2 授業の様子

2 番目に選択した授業 International Relations and European Integration since WWI であり、内容は授業名から直感的に見ることができます。この授業では、第一次世界大戦後のヨーロッパ諸国の国際関係について詳しく説明し、これを手がかりとして、ヨーロッパ諸国が崩壊から相対的な協力と統合の状況に至るまでのプロセスを説明します。今回交換留学のプログラム「欧州社会文化研究」のコアコースの一つとして、欧州連合の歴史を包括的に理解する機会を与えてくれました。ブリュッセルの欧州議会への現地視察を含め、収穫は非常に多いものでしたが、コロナのせいで中止せざるを得ませんでした。この授業を選択する学生の多くは交換留学生なので、比較的グローバルなクラスであり、学生間で意見が分かれることが多く、非常に面白いものです。試験は、2つの短いエッセイを提出して試験を受けるという形をとります。



図4 授業様子

3 番目に選んだ授業は社会学でした。自分は社会科学が大好きだったので、この機会に社会学の分野を体系的に理解しました。このコースは、哲学部の教授によって教えられています。哲学部は、その優れた教育の質と全体的に厳格で実用的な学習スタイルでヨーロッパ大陸でもよく知られています。このコースでは、社会学の分野を確立、3人の創設者、マルクス、ウェーバー、デュルケームから、その後の発展とその代表者に関する情報について詳しく説明します。各レッスンの内容は非常に多いですが、非常に面白いものでもあります。補足的な研究資料として、教授はこれらの社会学者の関連する作品からの抜粋を引き出して、概念と理論の理解を深めます。各クラスは、完全な社会学の素人である私にとって多くの興味深い知識の洗礼であり、私は世界を別の見方で見ることができたと本当に感じています。試験の形式は有名な口頭試験で、このコースを選んだ理由の1つとして、ルーヴェンでの口頭試験とは何かを体験したいと思っていました。具体的には、2つの質問があります。1つは自己準備と自己回答で、もう1つはその場で教師がランダムに選択した質



図3 社会学の口頭試験の教室

問です。復習の際に内容が非常に複雑で、教授が具体的な範囲や種類を明らかにしていなかったため、準備の時結構苦勞しました。試験の結果は満足のいくものではありませんでしたが、私は様々な有意義な知識と経験を積んでいます。このコースを選んだ交換留学生はほとんどなく、ある意味で本当のベルギーの授業の雰囲気を体験しました。学生たちによる授業中の教授との活発な議論や質問は、日本での留学の間で体験できなかったものでした。

また、認知科学やヨーロッパの金融法の授業も受講しました。とても興味がありましたが、関連する背景知識が比較的不足していたため、勉強する時非常に困難でしたので、テストを参加なし、傍聴するしかありませんでした。それでも色々な感じこともあります。これらの授業では、白髪のおばあちゃんが授業に耳を傾けるようになり、仕事の経験が豊富な多くの友人が勉強を続けることを選びました。そんな環境の中で誰もが積極的に学んでいるダイナミズムに触発されないようにするのは難しいことです。

冬の最終試験の準備に入るとき、コロナの予防と管理の必要性と人数の制限のために、ルーヴェンの図書館は時間に基づいて、座席に非常に厳格な予約システムを実装しています。その間、私は図書館にもよく勉強に行きましたが、予約するたびに急いで席に選択という緊張感は今でも忘れられません。



図5 中央図書館

中央図書館に加えて、ルーヴェン大学の各学部には独自の図書館があり、全ての学生さんが自由に入ることができ、非常に便利です。象徴的な中央図書館で勉強していると、ハリーポッターの映画に突入のような感覚がよくあります。

授業方面の勉強以外、今回の交換留学では、自分の学位論文の先行研究も行っています。私のトピックは、ヨーロッパと日本の電気自動車産業の発展に関する研究です。情報を収集するだけでなく、街頭に出るたびに、電気自動車の状況や充電スタンドの配置にも気を配っています。もともと、その場でいくつかの企業を訪問することを計画していたのですが、ヨーロッパでのコロナの状況が深刻化しているため、諦めざるを得ませんでした。

生活方面

歴史的な大学の町として、ルーヴェンには当然多くの中世風の建物があります。私が初めてヨーロッパ大陸に足を踏み入れたとき、これは私にとって非常にエキサイティングでした！到着する時は、暇な時間を使ってほぼ毎日街を散歩し、ヨーロッパの生活環境を体験しました。ヨーロッパ人、特にベルギー人の余暇生活感も感じます。出発前に学校のボディプログラムに申し込み、到着後数日でベルギー人の同級生とマッチングしました。この友人おかげで、地元のベルギー人の生活状況をすぐに理解することができました。その後、友達の招待で学校の小さな合唱団に参加しました。毎週火曜日の夜に一緒に合唱します。地元の学生グループとの交流にとっても役立ちます。また、ここでの友人との交流から、ベルギーに関する興味深い情報をたくさん学びました。クリスマスには、地元の高齢者福祉施設の住民を対象に小合唱も行い、とても感動的でした。



図6 街頭雰囲気

今回の交換留学では、学校が提供する寮に住むことにしました。今まで寮を手配できなかったのもとても不安でしたが、出発の3日前に寮が割り当てられたというニュースを受け取り、とても興奮しました。寮の友達はみんな様々な国からの留学生で、ほとんどがヨーロッパ諸国から来ています。私は共同キッチンとバスルームのある寮に住んでいます。キッチンで国際的な友人のさまざまな食文化を観察することは非常に面白いです。余暇には、ルームメイトとおしゃべりするのも面白いです。異なる文化、職業、人生経験を持つ友人とコミュニケーションを取り、異なる文化や異なる生活の可能性を理解することは、それ自体が非常に魅力的です。



図7 寮で友人との食事

ベルギーはヨーロッパの中心に位置しているのも、交通機関も非常に便利です。交換留学の初期には、休暇を有効に活用して、ベルギーの近隣諸国や大都市を訪問し、活動の範囲を広げただけでなく、視野を大きく広げました。ヨーロッパの多くの美術館が大学生のために無料で利用できるシステムが本当に好きです。パリにいたとき、このシステムを大いに活用しました。数日間でルーブル美術館、オルセー美術館、ベルサイユ美術館、ポンピドゥー美術館などの博物館や美術館を訪れました。文化と芸術の海で泳ぐことは私をとっても幸せにしていると云わざるを得ません。

最後に

コロナが拡大し続けている今日の世界では、海外への出国は、ビザと航空券だけだった以前ほど簡単ではないようです。それはまた、勇気と信仰と関係があるようだと思います。コロナには一定のリスクがありますが、未知の国に一人で行くには勇気が必要ですが、...しかし、多くの障害は、私の好奇心と外の世界を探検したいという願望を払拭するのが難しいです。KU

Leuven が留学生のために開催したウェルカムミーティングでは、講師が留学生に大胆に快適ゾーンから抜け出し、見知らぬ人と大胆にコミュニケーションを取り、より多くを感じ、より多くを学び、新しい留学生と衝突するように頻繁に促したことを今でもはっきりと覚えています。この短い学期の交換時期を振り返ると、夢のように過ぎ去りました。もちろん実際に試したことのないことや経験はたくさんありますが、お互いの文化のコミュニケーションや理解のレベルで、私留学は実に実り多いものだと思います。やがてウイルスはなくなると思いますが、これが原因で人間同士のコミュニケーションがなくなることはありません！